

明るい低炭素社会の実現に向けた都市変革プログラム

実施機関：東京大学（総括責任者：濱田 純一）

実施期間：平成 22～26 年度

プロジェクトの概要

高齢者の資産と能力の積極的な社会への還元を進めることで、成長可能な「明るい」低炭素社会の実現を目指す。都市と自然が近接する柏の葉キャンパスタウンにおける統合的な低炭素化の実証実験により、「明るい」低炭素都市のモデル化を行うことを目的とする。具体的には、高齢者の住宅資産の低炭素化、高齢者の活動支援システムの低炭素化、高齢者の担い手としての低炭素化を進めるため、それぞれ、太陽エネルギーを利用した超省エネヒートポンプ、超小型電気自動車の技術開発、ならびに、シニア植物医師の訓練に向けたプログラム開発と認証の制度設計を行う。個々の開発と共に、これらの技術の社会実装に備えた都市計画、農業・緑地計画、および情報システム化技術の開発を行う。統合的な実証試験により、技術開発、および社会システム改革の具体化を図り、「明るい」低炭素都市のモデル化を行い、全国への普及・展開を推進する。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	研究プログラムの有効性	実施体制等の有効性	継続性・発展性の見通し
A	a	b	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

高齢者の能力を積極的に取り入れた「明るい」低炭素都市の実現を目指し、低炭素社会へ向け技術開発、都市計画の制度設計、情報インフラ整備など6つの研究グループが所期の計画の通り進捗していることは評価できる。要素技術の開発は大学を中心に行われており、研究グループ間の連携が図られているが、今後、自治体のみならず、より民間企業やNPOと緊密に連携することで、社会システム改革に向けて、開発した技術をパッケージ化し、一体化された低炭素都市モデルの実現を期待する。

- ・**進捗状況**：6つの研究グループがそれぞれの担当分野において所期の計画通りの取組を行っていることは評価できる。今後は、外部や既存の技術と比較して、その優位性の確認や定量的な評価を行うとともに、6研究グループが共同して早期に具体的な計画を策定し、社会実証実験を行うことを期待する。
- ・**研究プログラムの有効性**：各研究グループが行っている要素技術・システム開発は、多くの論文・口頭発表の業績が出ており、順調に成果が得られていると評価できる。しかし、都市計画、農業・緑地計画、情報システムグループの活動の意義を一層明確にし、本プロジェクトの目指す社会システム改革の中で分かりやすく示す必要がある。
- ・**実施体制の有効性**：社会調査等で柏市の積極的な協力が得られていることは評価できる。また、運営委員会、研究討論会、将来都市ビジョン検討会を定期的に開催するなど、実施体制は

有効に機能していると評価できる。今後、柏市の環境未来都市との整合性を図りながら、プロジェクトを推進することを期待する。

・**継続性・発展性**の見通し：「明るい低炭素都市推進協議会」を立ち上げ、継続実施を視野に入れた計画を策定していることや柏市から強力なサポートがあることから、継続性・発展性の確保が期待できる。今後、本課題で得られた成果を実装する段階においては、柏市で進んでいる都市開発プロジェクトとの連携を強めつつ、高齢化社会における低炭素都市モデルを実現する実証成果を期待する。